ご家族・二世帯住宅の中でもご回覧下さい

防災だより

第31号
小田急金森泉自治会 自主防災隊
2026年11月1日発行

小川高校施設と、災害時３機能を知る

先月10日、住民と開設委員など総勢103名（周辺５自治会員94名、市職員６名、学校関係３名）で訓練を行い、成果や課題など貴重なデータやご意見を得ましたので、報告致します。

（自治会別参加者数 ➪ 成瀬が丘37・小田急金森泉21・小川かえで22・西小川８・京浜小川６）

● ３機能とは？

市立の小中学校と違い周辺住民は校内を知らず、災害時利用に備えて知っていることが大切！

1 グラウンドが**避難広場** ➪ 震度５強以上で開設 （一時的な安全確保の場）

2 体育館などが**避難施設** ➪ 震度６弱以上で開設 （自宅に住めない人の生活の場）

3 避難生活時の**物資と情報の拠点** ➪ ここの避難生活者と**周辺の在宅避難者**の支援物資受取り場所で、行政との情報受発信場所

なお、現在の当自治会避難広場は「わさび田公園」、避難施設は「小川高校」ですが、校内施設受入れ準備や自治会体制がもう少し整えば、**近くの方々の避難広場を「小川高校グラウンド」へ変更することも検討中**で、そのときは改めてお伝えしたいと考えています。

● 内容概要（写真）

▼正門の避難広場案内図 ▼グラウンド「自治会のぼり」に集合**（同地区非会員も一緒ルール）**





▼体育館内居住テント2m×2m とエアーマット 0.9m×2m ▼応急給水栓（上水道取出し）





● アンケート結果　結果やご意見は、取組み改善などに役立てて参ります。

★ 回答者数 73 名（開設委員や市防災職員は対象外）

★ %値は全回答に対する「はい」や「訓練要望」の率、（主な意見など）

★ 100%との差は「いいえ」や「無回答」、なお、小数点以下の%は四捨五入

▶小川高校の災害時の３つの機能を、ざっと理解できた　95%

▶機能 1 ⇨ 避難広場（グラウンド）についての理解度

- 避難広場は震度５強以上で開設　96%
- グラウンドの住民と生徒等すみ分け　97%
- 開設などに協力できそう　86%（時と場合による、高齢で無理など）

▶機能 2 ⇨ 避難施設（体育館など）についての理解度

- 施設開設は震度６弱以上で開設　95%
- 自宅に住めない人の生活の場　97%
- 運営は避難生活者が自ら行う　86%（はじめは委員で徐々に避難者）
- 生活ルールや運営マニュアルがある　89%

▶機能 3 ⇨ 支援物資受取場所や行政などとの情報受発信場所についての理解度

- 避難施設生活者と周辺住宅避難者、両方のための施設　95%

▶当日運営は適切性　・開始時刻や所要時間適切　96%

・内容や説明適切　92%（質問時間がもっと欲しい）

▶今後の当施設での住民訓練要望（複数回答可の率）

避難広場（グラウンドなど）について

- 広場集合訓練　51%　・開設訓練（正門案内掲示、広場のぼり設置など）　44%
- 通信訓練（トランシーバーで自治会地域と高校間の状況通信訓練）　37%

避難施設（体育館など）について

- 体育館など屋内開設訓練（居住スペース、照明、掲示物など設置）　59%
- 屋外施設などの開設訓練（受付、簡易トイレ、掲示物など設置）　55%
- 倉庫から資機材搬送　36%　・簡易トイレ使い方　28%　・炊き出し訓練　22%

▶自由意見など（内容が似ているものは、まとめました）

- 初めて校内を見て、課題含めいろいろ分かった
  - ⇨ 施設配置や広さ・災害時の使い方原則・階段多く大変・トイレ課題など分かった
    グラウンド横の東西など通用口の開錠希望　など
  - ⇨ 自宅の備えの充実見直し（避難施設でなく、在宅避難生活を考えて）
- 今後も繰返し訓練実施や、必要事項の説明などを希望

● 総括　**この訓練方法で、災害時の当施設機能の住民認知度向上ができるとわかったので、改善実施を繰返しつつ、「早期に認知住民数を増やす方法」にも取組む必要がある。**